

プレス発表資料

平成22年 9月 1日
独立行政法人 防災科学技術研究所

愛フェス 2010 へ出展 —「愛ファザ Walk」にて擬似帰宅困難者支援を実施—

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、9月4日（土）・5日（日）の2日間開催される「愛フェス 2010」に当研究所が開発したウェブマッピングシステム「e コミマップ」を出展します。また、愛知県岡崎市から名古屋市栄までの50キロを親子で歩く「愛ファザ Walk」において、「e コミマップ」を活用し、参加者を帰宅困難者と見立てた帰宅困難者支援を行います。

ルートや休憩ステーションの位置、災害ハザードの情報や避難所の位置などを当研究所が開発したウェブマッピングシステム「e コミマップ」を使って参加者に提供します。また、参加者やスタッフによる実況コメントを携帯電話から投稿し、e コミマップ上に表示することで、リアルタイムの状況をe コミマップから発信します。発信された情報は、名古屋市栄の愛フェス 2010の会場で展示するとともに、「e コミマップ」を活用したe 防災マップ作成体験イベントも行います。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
災害リスク情報プラットフォーム
研究プロジェクト
リスク研究グループ
長坂、須永
電 話：029-863-7546

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課
佐竹、山科
電 話：029-863-7783
F A X：029-851-1622

愛フェス 2010 へ出展 —「愛ファザ Walk」にて擬似帰宅困難者支援を実施—

1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所は、9月4日(土)・5日(日)の2日間開催される「愛フェス 2010」に当研究所が開発したウェブマッピングシステム「e コミマップ」を出展します。また、愛知県岡崎市から名古屋市栄までの50キロを親子で歩く「愛ファザ Walk」において、「e コミマップ」を活用し、参加者を帰宅困難者と見立てた帰宅困難者支援を行います。

ルートや休憩ステーションの位置、災害ハザードの情報や避難所の位置などを当研究所が開発したウェブマッピングシステム「e コミマップ」を使って参加者に提供します。また、参加者やスタッフによる実況コメントを携帯電話から投稿し、e コミマップ上に表示することで、リアルタイムの状況をe コミマップから発信します。発信された情報は、名古屋市栄の愛フェス 2010 の会場で展示するとともに、「e コミマップ」を活用したe 防災マップ作成体験イベントも行います。

2. 開催概要

■名称	愛フェス 2010
■主催	愛フェス開催委員会
■後援	愛知県, 名古屋市, 愛知県市長会, 名古屋商工会議所, 社団法人中部経済連合会, 環境パートナーシップ・CLUB, 中日新聞社
■日時	2010年9月4日(土)・5日(日)
■場所	愛知県名古屋市 久屋大通り公園 もちの木広場
■入場料	無料
■公式 HP	http://ifes.jp/

3. 防災科研の出展企画

3. 1 愛ファザ Walk における模擬帰宅困難者支援

当研究所が開発した最新のウェブマッピングシステム「e コミマップ」(インターネットで地図を閲覧・作成できるシステム)を用いて、愛ファザ Walk 参加者の模擬帰宅困難者支援を行います。参加者は携帯電話の GPS やカメラを使い、e コミマップへ情報を投稿します。また、e コミマップにはコースや休憩ステーション、ハザードマップなどのデータが登録されており、参加者は現在位置の災害の危険度や、周辺にある避難所の位置などを把握することができます。これらの情報は、名古屋市栄の愛フェス 2010 の会場において、リアルタイムで公開する予定です。



e コミマップで上のハザードマップ重ね合わせ



参加者による投稿イメージ

愛ファザ Walk の概要

■名称	愛ファザ Walk
■主催	愛フェス開催委員会, NPO 愛知ネット
■日時	2010年9月4日(土)・5日(日)
■場所	愛知県岡崎市から旧東海道を歩き、名古屋市栄まで
■公式 HP	http://ifes.jp/walk/

愛ファザ Walk は、10 歳前後の子どもと父親が、愛知県岡崎市から名古屋市までの 50km を一緒に歩くイベントです。50km という厳しい道のりを一緒に乗り越える中で、親子の絆を深めることが目的ですが、その一方で、防災の観点からは災害時に電車などの交通機関が使えないという状況にある「帰宅困難者」を実際に体験するという側面もあります。

3. 2 e 防災マップ作成体験

「e コミマップ」を用いて、避難場所など、自宅や学校、職場の周りにどのような防災に役立つものがあるか、ビルの窓ガラスの飛散等の危険性が高い場所など周りにどのような危険性が潜んでいるか、パソコンを使ってマップシステムに入力します。そして、様々な地図や航空写真、自治体が提供するハザードマップ等を重ね合わせ、自分達だけのオリジナルな e 防災マップが作成できます。作成したマップは、印刷して持ち帰ることができます。



左：e 防災マップ作成の様子（当研究所一般公開での例）、右：作成したマップの例